

「#杉戸町応援サポーター」1年間の活動を報告します！

杉戸町と杉戸町観光協会は、SNS等を積極的に活用し、情報を発信していくため、町に縁のあるメンバーが在籍するアイドルグループ「#ババババンビ」を「#杉戸町応援サポーター」に令和3年3月22日に任命し、PR活動を進めてきました。



令和3年3月「#スギト推しポスター・チラシ」作成
令和3年10月第9回アニ玉祭に出演
※アニ玉祭…アニメ、マンガまつりinさいたま

令和3年12月から令和4年2月「#杉戸町応援サポーター」が選ぶ「#スギト推し飯」をSNSでPR「#スギト推し飯シールラリー」の実施(町内14店舗参加)



◀#杉戸町応援サポーターリーダー「岸みゆ」さん
杉戸町応援サポーター活動から、様々な人との出会いがあり、町民の皆さんが温かく迎えてくださいました。今後も、杉戸町の魅力を多くの方に伝えられるように頑張ります！
#杉戸町応援サポーター活動紹介

Special Interview スポーツ煌めき人



國學院大學栃木高等学校 ラグビー部3年(令和4年3月卒業)
小野田 輝平 選手
(杉戸町立杉戸中学校出身)
PROFILE
生年月日 2003年6月16日(18歳)
出身校 西小学校 → 杉戸中学校 → 國學院大學栃木高等学校
ラグビー歴/ポジション 13年/ナンバーエイト
身長/体重 170cm/84kg
好きな言葉(座右の銘) ぶるな らしく
(國栃ラグビー部吉岡監督の言葉)

父親は國栃ラグビー部OBであり、その影響で、自分もラグビーを続け、國栃にも進学しました。
ラグビーを続けていく中で辛かったことは？
肩脱臼の手術をし、リハビリ生活を送りました。仲間が試合に出る中、とてももどかしかったです。
印象に残っている試合は？
花園での準々決勝です。自分のプレーが得点に結びつき、國栃悲願のベスト4進出を果たしました。
将来の展望・夢は？
大学でもラグビーを続け、将来的には、高校で教鞭をとりながら、ラグビー指導にあたりたいです。
感謝の気持ちを誰に伝えたい？
社会での厳しさなどについて教えていただいた、西小学校や杉戸中学校の先生方です。

2022年新春、全国高等学校ラグビーフットボール大会(第101回大会)にて、栃木県代表として出場した國學院大學栃木高等学校(以下、國栃という)は、創部以来の快挙ベスト4進出、さらに決勝戦にも進出し、準優勝という偉業を成し遂げました。
今回、杉戸中学校出身で國栃ラグビー部として花園の舞台に立った3年生(当時) 小野田 輝平選手へのインタビューを紹介します。
ラグビーを始めたきっかけは？
5歳の頃、ラグビースクールの体験教室に参加したことです。
ラグビーとの関わりについて、お父さんの影響は大きいですか？



桐蔭学園戦で勇猛果敢に突き進む小野田選手(画像提供 父 小野田裕之氏)



教育委員会 柿沼指導主事(当時 杉戸中学校体育教師)とも再会し、激励いただきました。

問合せ 社会教育課 スポーツ振興担当 内線493
インタビュー完全版はこちら ▶

3月2日(水)/南放課後児童クラブ家具製作 日本工業大学が家具製作を協力

南放課後児童クラブ(大字堤根)で使用する家具(下駄箱、ランドセル棚等)が町と包括的連携協定を締結する日本工業大学の建築学部野口憲治研究室の協力により、製作されました。



放課後児童クラブの児童が使いやすいと考えられ、子どもたちからは、大きくなって使いやすいと好評でした。

2月3日(木)~6日(日)/杉戸町の生活と観光写真コンテスト 町の魅力を写真でPR

西公民館(高野台西)にて、町内で撮影された未発表の作品で、四季を通じ町の観光・宣伝に役立つ作品、計37点を集めた写真コンテストが開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響から、出展数が例年より少なくなりましたが、例年とは異なる表現の作品が多数寄せられました。



▲杉戸町長賞 田中清明「初めての春」

2月18日(金)/子育て応援フードパントリーへ寄贈 彩のかがやきで子育て応援

埼玉みずほ農業協同組合様より、町内の希望するひとり親家庭に食料品を無料で配布する活動を行うすぎと居場所づくり応援隊へ、「彩のかがやき」を寄贈いただきました。



(写真左から)すぎと居場所づくり応援隊 寺田代表、古谷町長、日下部代表理事組合長
町では、引き続き町内の希望するひとり親家庭に食料品を無料で配布する活動について支援を行っていきます。

甘くておいしいイチゴの季節になりました

2月3日(水)/杉戸町内(大字才羽)
町内のイチゴ農家である内藤さんが栽培しているイチゴハウスでは、「もういっこ」「べにほっぺ」など4品種のイチゴが栽培の最盛期を迎え、甘い香りを漂わせています。
同園では、高設水耕栽培を採用していて、腰を屈めることなくイチゴ狩りが楽しめ、口いっぱい甘さが広がります。また、アグリパークの直売所でも好評を博しています。
内藤さんは、消費者に喜ばれる甘くておいしい高品質なイチゴ栽培に努力していきたいと語っていました。
(広報特派員 坂本 吉江)
※イチゴ狩りのお問合せはアグリパークまで。



環境を守り、自然を楽しもう

2月12日(土)/大落古利根川
清地橋から古川橋間で、すぎと環境会議の会員等が、冬鳥の観察会を兼ねた川の清掃活動を実施しました。漂着沈殿したゴミはボランティア袋6袋分となりました。寒中での重労働でしたが、水面で泳ぐカモメの姿に癒されました。
(広報特派員 坂本 吉江)



「移動イチゴ狩り」に笑顔あふれる

3月3日(木)/杉戸白百合幼稚園(大字下高野)
新型コロナウイルス感染症の影響により、今年の中行事が中止となる中、イチゴの産地として有名な栃木県真岡市のご協力により「移動イチゴ狩り」が行われました。
イチゴの被り物をかぶった園児たちがプランターから垂れ下がったイチゴを摘み取り、おいしそうにイチゴを前に楽しそうな笑顔浮かべていました。
(広報特派員 渡辺 光子)

